



学校だより

9月号
横浜市立桜台小学校
2019年8月27日発行

笑顔の力

校長 小宮 健

令和になって初めての夏休みが終わりました。今年も暑い夏でした。子どもたちは38日間という長い期間をどのように過ごしていたでしょうか。一人ひとりにそれぞれの夏休みがあったことと思います。ご家庭や地域の方々がしっかりと見守っていただき、大きな事故も無く無事に夏休みを終えられたことに心から感謝申し上げます。

さて、夏休み明けの子どもたちを迎えるにあたり、本校の教職員にこのような話をしました。

～ある朝の出来事です。いつものように出勤中の私は乗り換えのために混雑した横浜駅のホームに降り、歩き出したところ、“Excuse me!” と呼び止められました。振り向くと、欧米風のご夫婦と思われるご高齢の二人が一枚のメモ用紙を差し出し、英語で何やら話しかけてきたのです。そのメモ用紙を見ると‘KEIKYU’と書かれていました。「ああ、この方たちは京急線に乗りたいのだな。京急線の改札口までの行き方を教えればよいのか」と、尋ねられた内容はすぐに理解できました。

しかし、それからが大変です。残念ながら英語に自信がない私は、すぐに言葉が出てきません。最初は目的地まで案内しようかとも思いましたが、通勤ルートの逆方向で時間に余裕もありません。仕方なく「アー… ン…」と唸りながら知っている単語（実際に合っていたかはわかりません）を並べ、ぎこちない発音で、身振り手振りを加えながら一生懸命伝えました。

すると、そのお二人は私の眼を見て笑顔で“Thank you!”とおっしゃったのです。私は無理に作った笑顔で“You are welcome.”と返すのが精一杯でした。

そのあと、乗り換えた電車の中で私の鼓動の高まりはしばらく止みませんでした。しかし、そのドキドキした気持ちは決して不快なものではなく、むしろ自己有用感に近いものでした。

そのときに気づいたのです。あのお二人の笑顔がそうさせていることを。もし、しかめっ面で首を傾げられていたら、きっと暗い気持ちで職場に着いていたことでしょう。相手に上手く伝わったかどうかは別として、私は確かにあの笑顔に救われたのです。

久しぶりの学校、子どもたちの多くは友達や先生との再会に心躍らせて登校してくると思いますが、中には不安な気持ちで緊張しながら教室に入ってくる子もいるかもしれません。気分新たに始まった学校生活の中で、「よく頑張ったね。できたね。すごいね。素晴らしい。さすがだね」と子どもの眼を見て認めて褒め、評価し、「大丈夫だよ」「ありがとう」と笑顔で子どもを受容できる教師であってほしい——そのような心持ちで子どもたちを迎えたいものです。子どもたちへ安心感を与え、自己肯定感を醸成する教職員集団を目指していきましょう～

暑い夏のフィナーレを飾った「PTA バンド 15 周年大感謝祭 サマーコンサート 2019」が開催された保土ヶ谷公会堂には素敵な音楽とたくさんの笑顔があふれていました。改めて、この桜台の地域は「音楽のまち」であることを実感しました。これまで活動を支えてこられた全ての方々に厚く御礼申し上げます。秋に開催される「学園通りコンサート」も今からとても楽しみです。